

みなさん、おつかれさまでした。全体討論では39人の方から43回の発言がありました。分散討論も2回行いました。どれも決議案を豊かに練り上げるものでした。

この決議案と報告をつくるにあたって、中央常任委員会として考えたのは、中央委員のみなさんも、全国の多くの同盟員ももっている「青年にとって民青をもっと魅力ある存在にしたい」「仲間を迎え、大きな民青をつくりたい」という意欲にこたえ、ぶつかっている困難を打開し、次のステップをふむには何が大切かということでした。それには、全国の県・地区・班が大会以後つくってきた活動をおおいに確信にしつつ、その上にもう一步ふみこんだ問題提起を率直にすることが求められていると感じました。奈良の谷川県委員長が「今回の報告ほど自分にせまってくるものはなかった」と発言されましたが、この率直な問題提起にみんながむきあい、とりくんできたことをふりかえって、どこに次のステップへむかう糸口があるのか、真剣に考えて討論がおこなわれました。これは、いわば中央委員会自身が、「率直に」と「丁寧に」を実践しました。これは今後の民青同盟の前進・発展をめざす上で大きな経験だったということをまず述べておきたいと思います。

1、討論の特徴と決議案・報告の確信

次に、討論の特徴についてです。全体として、決議案と報告の全体が積極的のうけとめられました。それも単に「大事なことを言っている」というだけでなく、「この決議案を班で読みたいと思った」「機関の役割がスッキリわかった」「自分がこれで躊躇を乗り越えられると思った」など、実際の班活動、機関活動、自分自身の活動に生きる方針であることが語られたことは、大変重要だと思います。討論の特徴を2つの点で述べます。

●決議案の3つのプロセスの大切さ、基本的性格の力が、青年の願いや模索にひきつけて確信になった
第一は、決議案の3つのプロセスの大切さ、その根本にある基本的性格の力が、青年の願いや模索にひきつけて確信になったことです。青年の願いの切実さ、探求と模索の深さが、討論でも浮き彫りになりました。

東京から資本論ゼミに参加してきた学生の話がありました。中学時代、生活が苦しく、パートで働くお母さんが疲れて包丁握ったまま寝ている。一家の旦那らんもない。どうして自分がこんなに大変なのか、お母さん悪いのか、人間が悪いのか、社会が悪いのか、どうしたらかえられるのかと考える研究したいと大学にきて、資本論ゼミに感激して民青同盟に加盟したとのことでした。

新潟からは同盟員の模索、まさに「せめぎあい」のリアルな姿が報告されました。ある班員は青年大集会に参加したあと、「集会をやっても無駄。かわらない」といつていた。班長がショックうけた。しかも4ヶ月たっても班会をやると、「集会は無駄」といつている。しかしいま「集会にかわる社会をかえられる方法はないのか」という言葉がでてきたとのことでした。西澤県委員長も「どうもあきらめだけではないのではないか。切実な願いをもっていいのではないかと思った」と話されていましたが、決議案にもとづくとても大切な見方だと思いました。

そして要求にこたえ、模索によりそい、政治を動かす多彩な活動を、まわりの青年とともにすすめている経験が交流されました。

島根からは、「若者ほんねトーク」という集会を開いて70人が参加し、青年の声を集めて県に申し入れもして、参加した青年からも「こういうことができる民青はすごい」との感想もあったと報告がありました。そして、いま高校生1000人の就職希望に求人800人、どんなにがんばっても200人はこぼれる状況だと、11月に再び県交渉を予定しているとのことでした。

沖縄から、「全国の青年が行動することに本当に励まされる。日本から基地をなくす歴史的な行動にしよう」と発言がありました。秋田の大学祭では、平和委員会が行った米軍基地問題のシール投票に約600人が参加したとの報告もありました。沖縄県知事選のたたかいと連帯し、「いっせい行動」に挑んで青年の声をアピールする、そして青年の模索によりそう対話をひろげ、おおいに加盟もよびかけていきたいと思えます。

石川康宏先生を招いて生き方と重ねて科学的社会主義の学習会をひらいた愛知では、ビラをみて県内の大学生が参加し、「私自身が現状をあたりまえと考えず、これからはかえていくことを考えたい」とメールで感想をよせてくれたとの発言もありました。

討論を経て、民青同盟の基本的性格が、青年の切実な願いとともに、あきらめの気持ちと「なんとかしたい」「気持ちがせめぎあう探求と模索に正面からこたえるものであること、そして青年の“なんとかしたい”思いを政治をかえるエネルギーにしていけることが明らかになったと思えます。基本的性格の力をおおいに確信にし、同盟員とともに、まわりの青年の願い、模索にこたえる活動をどんどんすすめていくことをよびかけます。

●仲間を迎え、大きな民青同盟をつくる2つの手応えをつかんだ

第二は、仲間を迎え、大きな民青同盟をつくっていく2つの手応えをつかんだことです。

一つは、この決議案で同盟拡大をみんながとりくむ活動にできるという手応えです。決議案をよんで、「班と同盟員の目線で書かれている」「これを使って率直に議論したい」という発言が、たくさんの人から出されたことに、それが示されていると思えます。

埼玉では、県委員会で拡大の議論をしたら、民青の魅力は語られるけど、「友達は対象者と思えない」「学費は話題にしにくい」などの躊躇も率直に出された。そして県委員長の安部さん自身も実はためらいがあった。「でもこの3中委で考えていけば、その躊躇をのりこえられると思った」と発言されました。山口の真鍋県委員長からは、率直に「今までの中央の文書は遠く感じていた。でも今回の拡大の提起は、とまどいについても丁寧に書いてあるし、私も早く班で話してみたいと思う決議案だった。青年を決めつけないで、どんな要求や実態をもっているかを大事にしてかんがえながらとりくみたい」との決意が話されました。

もう一つは、実際に足をふみだせば、仲間を迎える班や同盟員に成長していけるという手応えです。この点で中央委員自身が自分の体験をふりかかっていることは印象的でした。

高知の岡田さんは、「報告の提起は本当にそうだと実感した。学生時代に民青に迎えた自分の友達は、『あなたといっしょに活動したい』と自分の本音を隠さず伝えることで関係も発展し、いま地区の常任になっていく」とふりかかっていました。機関やリーダー自身がその体験を思いかえしてみれば、「あつとき素直に加盟してほしい気持ちを伝えてよかった」と思うことにはあるのではないのでしょうか。そして自分自身も仲間とともに初めての同盟拡大に一步ふみだし、その一步一步を自信にして、成長してき

た軌跡があるのではないでしょうか。中央委員自身もこれからも挑戦の一步を大切に、仲間といっしょに成長しながら、新しい仲間をむかえるために力をつくしたいと思います。

この3中委で得た、「これなら議論できそう」「加盟をよびかけられそう」という手応えを、実際の活動へ生かし、大きな民青同盟への前進に実るよう、みんなで力をあわせることを心からよびかけます。

2、決議案・報告の討議・具体化について

●班プランの具体化・実行を応援しつつ、3中委を全班で討議し、班活動の発展を

次に採択されるであろう決議案の討議、具体化についてです。なにより、班会議を開催し、決議案を全班で討議・具体化することが大切です。その際、班プラン用紙やアンケートを活用するとともに、すでもっている班プランとの関係では、その具体化に水を差すのではなく、プランをより充実・発展させ、仲間を迎えていく力になる決議として読んでいくことです。

いま9月のよびかけにもとづいてひろがっている多彩な班活動、また「3分間スピーチ」や「民新」「われ高」の読み合わせ、「ご飯をみんなで食べている」などの活動は、それ自体かけがえのないものです。「今期、全班で班会議をひらくことを目標にし、今日ついにそれを達成した」（広島）「出された声に必死にこたえて、同盟員が魅力を実感している」（宮崎）などの発言もありました。それは大変な努力の積み重ねがあったと思います。3中委決議案には、その努力でつくってきた変化をもう一歩前へ発展させる方向性がこめられています。班では、とりくんできたことをふりかえて確信にするだけでなく、「民青同盟の魅力と役割は何か」「自分たちがやってきた活動にどんな意味があるか」をより深く考え、「仲間を迎え、大きな民青同盟をつくる意味」をおおいに議論し、次のステップをふみだしていくことをよびかけます。

また機関では、班の討議待ちにせず、機関としてどんどん具体化し実践していくことを大切にしたいと思います。報告については、分量は長いですが、決議案の討議・実践をすすめる機関の役割をつかみ、とりわけ民青同盟の組織づくりでふみこんだ議論をしていく上で大きな力になるものです。くりかえしたちかえって実践に生かしていくことをよびかけます。

●高校生アピールで、高校生分野の前進を

次に、高校生アピールについてです。このアピールの討議・具体化の方向は報告で述べたとおりです。討論でも様々な経験が交流されました。大阪・西淀此花地区では、高校生の深刻な実態をみんなで共有する中で、最初かたちだけ決まった5人の相談員が、今はしっかり高校生の班会を開催しはじめたと発言がありました。三重では、教師になりたかった同盟員が「高校生に勉強を教えたい」と加盟書に書いているなど、体制強化の条件と可能性は様々あることも浮き彫りになりました。組織づくりの前進をめざす目標のなかに、ぜひ高校生分野を位置づけて、力をあわせたいと思います。

最後に、私たち自身の「仲間を迎えたい」「こんな民青をつくりたい」という自らの思いを大切に、民青同盟の前進へいっしょに力をつくすことをよびかけて、討論の結語とします。ともにがんばりましょう。